

平成31年度
事業報告書

平成31年4月1日から
令和2年3月31日まで

公益財団法人 真田山陸軍墓地維持会

平成31年度 公益財団法人 真田山陸軍墓地維持会 事業報告書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

今期は公益財団法人へ移行後7年目の事業年度となり、各公益目的事業を確実に進めた。前年度に引き続き、活動にご理解のある各種団体も頻りに清掃活動を実施していただいている。

本年度は、台風の接近により万灯会の開催を中止することになったが、秋季慰霊祭については、事前準備作業から当日にかけて、多くの方にご協力していただき、大いに励みとなった。

各公益目的事業の内容の充実を図るための財政基盤の強化については、維持会員の入会があり、僅かながら維持会員受取会費の増額につながった。ご寄附もあったことから、納骨堂の祭壇の修復も行うことが出来た。また、高額のご寄付については、今後の公益目的事業の資金として活用していく。

1. 事業の実施状況

(1) 慰霊祭の開催による戦没者の崇敬と世界の平和を祈念する思想の普及に寄与する事業

(公益目的事業 1)

① 秋季慰霊祭の実施

本年度の秋季慰霊祭は、10月26日の土曜日 10時30分より実施した。

参詣者は遺族はじめ、地元出身国会議員、大阪府議会議員、大阪市議会議員、陸上自衛隊、各種団体から合計300名を超える参詣を頂き、無事に執行できた。

慰霊祭は、全員による国歌斉唱に引き続き、今回も陸上自衛隊の協力を頂き、当墓地に眠る精霊に対しラップ吹奏「国の鎮め」を吹奏、黙祷の後、本門佛立宗清風寺僧侶の奉仕による読経唱題、吉川理事長による祭文奏上、大阪府遺族連合会 岡倉会長による追悼の辞、追悼電報披露、来賓焼香、参詣者焼香へと進み、11時40分に終了した。

② 慰霊祭当日の講演会、写真パネルによる自衛隊の活動紹介について

慰霊祭終了後の 13時30分より、タカラベルモント(株)TB-SQUAREにて産経新聞社の近藤和彦氏を講師にお迎えし、「アホになって国を守る」のテーマで講演会を開催し、慰霊祭参詣者の中で希望される方、約100名の方々に受講を頂き、14時30分終了した。

また、当日慰霊祭会場では自衛隊大阪地方協力本部の協力により、写真パネルの展示コーナーを設け、自衛隊の災害派遣活動等の活躍の様子を参詣者に紹介し、紛争や災害のない平和な国づくりと国を守ることの大切さを啓発する一助とした。

この慰霊祭を通じて、今日の我国の平和は過去の幾多の戦争に際し、国を守るために戦い、尊い命を捧げられた将兵や戦没者の犠牲の上に築かれていることを一人でも多くの方に理解頂き、戦没者の崇敬と悲惨な戦争を二度と繰り返さない平和の尊さを尊重する思想の普及に繋がるものと確信する。

③ 万灯会の開催

本年は台風10号の接近により、万灯会は中止とした。中止の決定は台風の進路から2日前に行い、各種団体に連絡すると共に、ホームページを活用して発表した。事前に各種団体に協力を呼びかけ、準備いただいたローソクについては、次年度にて使用する予定である。

④諸団体が実施する慰霊行事、個人参拝者の支援

納骨堂や墓碑前で実施される各種宗教団体の月例慰霊法要の湯茶等の接待、参拝・研修における献花対応、個人参拝者からの要請に基づく案内等の対応を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、3月からは諸団体の行事をお断りしている。詳細は事業報告書付表1「関係機関先との折衝及び各種行事への参加状況」参照。

(2) 墓地見学者の案内と学術調査活動により得られた調査・研究成果の啓発と普及を図る事業 (公益目的事業 2)

①真田山旧陸軍墓地の学術的調査活動の推進

当墓地の調査・研究を前年度に引き続き、近現代史研究者等で構成する「NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」に委託し、墓碑銘文及び納骨堂の遺骨の調査結果に基づき、埋葬・納骨将兵及び当陸軍墓地の歴史に関する研究を進めた。その成果として、「旧真田山陸軍墓地研究年報7」として提供を受けた。

②墓地見学者に対する案内

当墓地については、これまでの歴史学者や研究者による学術調査・研究活動によって得られた成果、情報を歴史資料として、墓地見学者はじめ、広く一般に公開し、近代日本史に関する学術の振興に寄与することを目的として、見学申込の諸団体は勿論、個人見学者についても、案内に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響により、3月からは案内、見学をお断りしている。詳細は事業報告書付表2「主な墓地見学会等の実施状況」参照。

③墓地資料展示室の活用

墓地の案内希望者に対し、当墓地の歴史的価値や概要、また我々の活動を理解頂くため、可能な限り現地案内と共に墓地資料展示室を開放した。

④パンフレット等の活用

墓地見学者や問合せのあった個人・団体には、墓地の概要、時代別墓碑例の紹介、当法人の目的・事業内容等を紹介したパンフレットを配布し、当墓地に関する情報の周知・理解に努めた。

⑤ホームページの活用

近年、ホームページを見て当法人に問い合わせをする方が多くなっている。そのため、当墓地の普及と法人の活動内容の広報の主要手段として、更新を行なった。また、各事業の案内やボランティア募集の呼びかけ等を掲載し、広く一般に周知した。

⑥マスメディアへの対応

本年度は、真田山陸軍墓地に関して新聞社1社、秋季慰霊祭に関して新聞社1社から取材を受けた。

⑦墓地案内用のコンパクトガイドブックの作成

近年、墓地来訪者も増加の傾向にある為、臨機応変に対応出来るようコンパクトガイドブックを作成している。また、海外からの来訪者も少なくない為、英語用のガイドブックを作成予定である。

(3) 墓地・墓碑、その他施設の維持及び修復に関する事業(公益目的事業 3)

①劣化の進んだ墓碑の修復・保存活動

本年度も損傷が進行している墓碑の修復・保存方法の技術的検討を進めるべく、京都造形芸術大学歴史遺産学科と委託契約を締結した。本年度は、大学と協力し、40基の墓石の強化処理を行った。尚、近畿財務局が本年度70基の墓石の修復・強化処理を行っている。

②個人墓碑の建替え希望の遺族に対する支援について

自費で墓碑の建替えを希望する遺族からの要請については、建替基準(原状を変更しない条件)を提示し、大阪市長宛に届出に関する支援を行い、墓地景観の維持に努めることとしている。今年度は、要請はなかった。

③墓地の除草・清掃等、環境維持活動

大阪市が実施される、植栽の剪定、草刈りの他、陸上自衛隊や諸団体のボランティアの協力を頂き、各団体の奉仕日や担当箇所の調整を行い、墓地の除草・清掃が実施でき環境の維持が図れた。近年は、陸上自衛隊伊丹修親会を始め、第三師団や第36普通科連隊の隊員の研修の一貫として、定期的に清掃奉仕に来て頂いており、環境維持に大いに貢献いただいている。また、各種協力団体も頻りに清掃奉仕にご協力頂き、常に清掃が行き届いている状態を保つことが出来、感謝している。新型コロナウイルス感染症の影響により、3月からは清掃をお断りしている。詳細は事業報告書付表3「墓地の清掃、除草等の環境保全活動の実施状況」参照。

(4) 法人の運営・管理に関する活動状況

①法令に基づく、法人の運営・管理について

行政庁への事業報告書、事業計画書等の定期提出書類は、法令に基づき遅滞なく届け出を行うと共に、関係法令の遵守に努めた。

②維持会員の入会促進

財政基盤の安定化を図るため、機会あるごとに広報活動を行い、維持会員の入会勧誘に努めた結果、昨年度末に比べ維持会員数で5名、口数で5口増加した。

その結果、3月末日現在で維持会員数は、法人会員数109法人、個人会員数46名の合計155の会員数で、維持会費口数では276口となった。今後も事業内容の充実を図るため、維持会員の入会勧誘につとめる。

③寄附金募集の推進

寄附金については、維持会員の入会勧誘同様、機会あるごとにパンフレット・リーフレットを活用し、広報活動に努め勧募を推進した。

④墓地管理の強化と環境改善

今年度は、大阪市が防犯カメラ2台の設置及び照明灯設置により防犯面の強化がなされた。また、参道が舗装され、歩きやすくなり参拝もスムーズに行えるようになり、大阪市建設局及び真田山公園事務所と協力し適切な対応を行うことが出来た。

⑤ 理事会・評議員会の開催

理事会・評議員会については、次のとおり開催した。

- ・理事会 平成31年4月19日、令和元年6月3日、10月17日、令和2年2月6日
- ・評議員会 平成31年6月21日、令和2年2月26日
- ・評議員選定委員会 令和元年5月7日

詳細は事業報告書付表4「理事会・評議員会等の開催状況」参照。

2. 財務状況

本年度は、経常収入・経常費用とも当初予算より増減があったため、いずれも補正予算を編成し処理を行った。

法人会計での支出が少なく、例年通りの処理を行えば当期の維持会員会費収入の2分の1(1,265,000 円)を法人会計に充てた場合、黒字になる可能性が発生したため、500,000 円を公益目的事業会計に充てるように処理を行った。

当期経常増減額は昨年度より5,829 円増加し、一般正味財産期末残高は、前年度より70 円減少の1,311,321円を計上した。また、正味財産は前年度末に比べ、4,999,960 円増加し、43,211,711 円となった。

3. 年度末の役員・評議員・事務局員の状況

令和2年3月31日現在の役員・評議員・事務局員の数は次の通りである。

- ・理事数 8名 ・監事数 1名
- ・評議員数 10名
- ・事務局員数 2名

以上